

これを見れば、「倫理」が学びたくなる！

「倫理」シラバス

このシラバスは、みなさんが1年間「倫理」を学習するために必要なこと、大切なことを説明したものです。よく見ておいてください。

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位
学年	3年	コース(系列)	コース	教室	教室
使用教科書	『倫理』(出版)		副教材	『新編 倫理資料集』(出版)	

なぜ、倫理を学ぶのですか？

「『倫理』って、なんだか難しそう。」とか、「堅苦しそうだから、おもしろくなさそう。」「どうせ暗記科目だろう。」と思っている人がいるかもしれませんね。



今みなさんは、「これからどのように生きていくべきか?」、あるいは「自分はどんな人間なのか」という悩みや疑問が生じているのではないのでしょうか? これらの悩みや疑問に対しては、それまでみなさんが学んできたことやみなさん自身の人生経験からでは、納得のいく答えが見つからないかもしれません。

みなさん以外にも、「どのように生きるのか」ということについては、太古の昔から誰もが悩み、その答えを求めてきました。

「倫理」という科目は、まさに「どのように生きるのか」に対する先人からのアドバイスをまとめたもの、言わば、先人からみなさんへのメッセージをまとめたものなのです。先人たちの揺るぎない生き方に憧れたり、その反対に苦悩に苦しむ彼らの姿に安心を抱いたり、あるいは、自然や社会に対する働きを客観的に眺めたりして、上の問いに対する自分なりの回答を見つけるための学習です。

別の表現をすると、「倫理」は、光と影の両面を持つ現代社会で、豊かで充実した人生を送るために、「この私とは何か」「私はどのように生きるべきか」「よく生きるとはどのような生き方なのか」といったことについて、先人の思想を手がかりに、悩み、考え、自らの方向を定めていくことを大切にしています。すなわち、「倫理」は、

自分らしく生きる

ことをめざした学習なのです。

そう、「倫理」の学習は、「考える」ことが中心になっています。

パスカルは「人間は考える^魂である」と言っています。この「考える」行為こそが、人間の本質なのです。さあ、みなさんこれからいろいろなことについて一緒に考えていきましょう。



どんなことを学ぶのですか？

何を学ぶのかな？

<p>青年期の課題</p> <p>悩みや不安を抱える青年期をどのように生きるのか、考えていきます。</p>	<p>人間としての自覚</p> <p>太古からの思想を、「人間の在り方」に焦点を当てて学習します。</p>	<p>国際社会に生きる日本人の自覚</p> <p>私たち日本人特有の見方や考え方を生み出すきっかけとなった思想を学びます。また、国際社会で貢献するために、世界の中の日本人として何をすべきか考えていきます。</p>	<p>現代を生きる人間の倫理 現代の課題を考える</p> <p>現代社会にみられる様々な倫理的課題について、自分の生き方や価値観に照らし合わせながら、どのように解決していくのか考えていきます。</p>
---	---	--	--

<p>自分らしい生き方をするためには、しっかりとした人生観を持つことが必要だとわかります。</p>	<p>先人が人生をどのように捉えたのか、何に悩み、何に喜びを見いだしたのか、それらを追体験できます。</p>	<p>自分の中にもある日本人特有の考え方やものの見方が、先人たちの思想を通じて確認できます。</p>	<p>社会の一員（公民）として、自分がどうあるべきか、どのように生きていけばよいのかわかってきます。</p>
---	--	--	--

これがわかるようになる！

「自分らしい生き方」

どのように学習すればよいのですか？

大切なこと

「倫理」で扱う内容は、社会や人々との関係において、人としてどうあるべきか、いかに生きるべきかに関わるものがほとんどです。したがって、それらを通して自分ならどうするか、どのように行動するかということを常に意識しながら学習に臨むことが大切です。

「よく考える」ためには、先人の思想を学ぶだけでなく、**クラスメートなど周りの人の意見や考えを参考にしたり、自分の考えを他人に理解してもらうことも大切**となります。

先人の思想の中には、難しいものもありますが、その人の人生や生きた時代をイメージしたり、資料集や文献をじっくり読んで、理解を深めていきましょう。

授業について

教科書や資料集にはいろんなことが書いてある

授業は、教科書や資料集、時には関係する資料（新聞記事など）を使って進めていきます。授業に臨む準備として、次回学習する内容やそれに関連する資料を必ず読んでおいてください。その際、興味や関心を持った内容、疑問に思ったことがあればノートに記入し、授業で質問してください。

ノートをじょうずに使おう

ノートは1時間で見開き2ページを使用します。左ページには板書内容を写してください。右ページについては、上1/5は質問事項やわからない語句の意味などを、その下2/5は授業のポイントやまとめを記入するようにしてください。残りの下2/5には、出された課題や学習した内容に関する自分の意見を記入するようにしてください。

キーワードを意識して

授業の最初に、必ず今日学ぶ学習に関連する、「これは何だろう?」「どういう意味かな?」という問いを板書します。その問いを意識しながら授業に参加し、学習内容から考察して、答えを導き出してください。

その日のことはその日のうちに

わからないことがあれば、できるだけ授業中に質問してください。もし、質問できなかったときには、その日のうちに、休み時間や放課後を活用して質問に来てください。

レポートについて

自分の言葉で自分の意見を

レポートの書き方を説明したうえで、何回か課題レポートを出題します。インターネットや図書館などを活用してテーマに関する資料を探し、それを自分なりの言葉でまとめてください。丸写しはダメです。必ず「自分はこう考える」という自分発信のレポートにしてください。

わかりやすい表現を

授業中の発表やレポート発表のときには、必ず他者にわかりやすいように発表してください。いくら素晴らしい意見を持っていても、相手に伝わらなければもったいないですからね。なお、レポート発表の場合は、パソコンや模造紙なども活用して表現方法を工夫してください。また、そのときは相互評価を実施しますので、公平な評価ができるように普段から他者の意見を注意深く聴く姿勢を身に付けてください。

学んだことを将来どう生かせばよいのですか？

常に考えることを忘れず、自分で選択し、判断し、行動できる大人になってください。

社会に出たとき、他者とつながることの大切さを意識して行動し、よりよい人間関係を築いてください。

自分にとってもみんなにとっても住みやすい社会をつくっていく主役になってください。

人は喜びだけではなく困難にも直面し、それを乗り越え生きています。実はそのとき、「倫理」の学習が知らず知らずのうちに役立っています。



評価はどのようにつけるのですか？

学習の評価は、下に示した4観点に基づいて行います。

4 観点の評価の説明の中には、「 の思想について理解する」「 のことについて自分の意見を持つ」などの一定の規準があります。その規準を基にして、**規準以上であれば「A」、規準であれば「B」、規準以下であれば「C」**の3段階で評価します。なお、みなさんがどの段階にいるかについては、様々な「評価方法」を使って行い、総合的に判断して評価していきます。

関心・意欲・態度

先人の思想や生き方、自分自身がどのようにあるかについて関心を高め、自分らしい自分になるために行動する意欲を持つと共に、これらにかかわる諸課題について、自分や他者、社会との関わりから学び考える態度を身に付けているか。

【評価方法】

日常の授業：学習中の基本的な活動（見る・聞く・書く・考える・発表する・調べる）ができているか。また、質問や意見などを積極的に行っているか。

ノート：板書内容はもちろん、授業のポイントやわかったことを書くことができているか。

レポート：自ら課題（テーマ）を設定し、意欲的に調べ学習や聞き取り学習ができているか。

思考・判断

これまで身に付いている知識や他者からの意見などを自分なりに結びつけ、そこから何が得られるのか想像し、自分の納得のいく解答が導き出せているか。

【評価方法】

日常の授業：先人の思想や諸課題に対して、自分なりに考え、まとめることができているか。

レポート：学習したことも含めて、自分のもっている知識や様々な情報を活用しながら考え、自分の意見としてまとめることができているか。

小テスト・定期試験：記述問題などで、自分なりに考えた意見が述べられているか。

技能・表現

資料をメディアや文献等を通して収集し、必要な情報を取捨選択し、まとめることができているか。また、発表の場面では、他者の意見も尊重しつつ、自分の言葉で発表できているか。

【評価方法】

日常の授業：資料から必要な情報を読み取ることができているか。発表場面で、他者にわかりやすく自分の言葉で説明できているか。

レポート：テーマに関する文献や資料の収集、インターネットの活用などができているか、自分の言葉で表現することができているか。

小テスト・定期考査：設問に応じた情報を読み取ることができているか。

知識・理解

先人の思想や現代社会の特質についての基礎・基本的な知識を理解し、自らの人生観・世界観を形づくるための知識として身に付けているか。

【評価方法】

日常の授業：これまで学習してきたことについての問いに、正しく答えることができているか。また、わからないことを積み残さず、質問などができているか。

小テスト・定期考査：学習してきたことを理解し、答えることができているか。



この1年間、具体的にどんなことを学ぶのですか

1年間一緒に
学習しよう!



学習評価の観点別では、特に重視するものに「 」印を付けています。
具体的な規準については、授業の中で説明していきます。

月	学習項目	学習のねらい	学習評価				評価方法
			関	思	技	知	
4	第1章 青年期の課題と自己形成 青年期の意義 1 人間とは何か 2 青年期の位置づけ 3 青年期の特徴	自分の生きている青年期はどのような期間であり、どのような発達課題があるのかを考える。 青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自分づくりにつながることを理解する。					学習活動 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	青年期の課題と生き方 1 主体性の確立 2 自己理解 3 幸福と生きがい 自分探しの罫 研究問題	青年期の課題をアイデンティティの確立として捉え、生涯にわたる生き方について考える。 自分自身の心に起こる状態を防衛機制の図にあてはめて考え、ねばり強く欲求を抑制し、調整しながら目標達成を図る必要性を理解する。 生きがいについているいろいろな視点から考え、今後の自分の生き方に生かす。					学習活動 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 レポート
5	第2章 人間としての自覚 哲学と人間 1 哲学すること 2 ギリシャの思想 ヘレニズム時代の思想 3 中国の思想 哲学的な見方と科学的な見方	考えること・哲学することの意義を考え、先人の生き方・考え方から、いかに自分が生きるべきかについて考える。 古代ギリシャの自然哲学の誕生をとおして、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。 ソクラテスの思想を、無知の知や魂への配慮を中心に理解する。 プラトンやアリストテレスの思想を、人間の徳や幸福という視点から理解する。 自然との一致を願う個人主義が、世界市民の自覚や自然法の観念を生んだことを理解する。 陰陽五行や風水など、身近なものにも中国の思想との関わりがあることを知り、中国の思想に対する興味・関心を高める。 孔子の説く仁及び仁の発露としての礼について考える。(『論語』の活用) 孟子の四端説や荀子の偽の考えなど、儒家が人間をどう捉えたかに着目する。 道家の思想が儒家の批判のうえに立つことを踏まえて理解する。 中国の思想が歴史的に日本に大きな影響を与えたものであることを理解し、私たちの現在にどのように関わっているのかを調べ、まとめる。					学習活動 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 レポート
1 学期中間考査 ・ 授業評価							

月	学習項目	学習のねらい	学習評価				評価方法
			関	思	技	知	
6	宗教と人間 1 宗教をどう考えるか 2 キリスト教 3 イスラム教 4 仏教 仏教とキリスト教の相違	世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて考える。 イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解する。 聖書の文言から、イエスの説く教えとはどのようなものかを実感する。 イスラム教の成立、宗教的な義務と戒律を中心とするその教えの特徴について理解する。 メッカの方向を調べるなどして、イスラム教の基本的教義（六信・五行）を実感する。 ブッダの悟りの中核とされる中道・四諦八正道・縁起の法について理解する。 日本における仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかについて考え、まとめる。					学習活動 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 体験学習 レポート
	芸術と人間 1 美しいものへの感動 2 芸術の意義 研究問題	ベーローヴェンやゴッホを例に、芸術と人生の関係について考える。					学習活動 発問発表 提出課題 レポート
7	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 日本人の精神風土 1 日本人のものの考え方 2 日本人の宗教観 3 日本人の倫理観	日本の風土の特徴を理解するとともに、この風土における日本人の生き方について考える。 日本人の道徳意識の特徴を理解し、一神教の道徳観との相違や、日本の民俗について考える。 書籍や聞き取り調査などから日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識をもっていたのかを理解する。					学習活動 発問発表 小テスト ノート提出 レポート 定期考査
	外来思想と日本の伝統思想 1 仏教と日本人の思想形成 2 儒教の日本的展開	仏教や儒教が日本にいかにつけられ、どう変容していったのかについて、その流れを把握する。 鎌倉新仏教の宗教思想の特徴を理解する。 親鸞や道元に共通する、日本人の人生態度について考える。 高知県にゆかりのある空海や南村梅軒についての調べ学習を行い、郷土の思想について理解する。 朱子学に基づく江戸思想の多彩な展開と、西洋に対する「和魂洋才」の態度について理解する。 古学から国学への展開と、国学による自文化理解の特徴を理解する。					学習活動 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 レポート 定期考査
1 学期期末考査 ・ 授業評価							
9	西洋思想と日本人の近代化 1 戦後思想の動向 2 国際社会での日本人 日本思想の中の人間の尊厳について	近代国家成立の過程において先人が個人と国家の関係をどのように捉えたかについて考える。 日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて苦闘した思想家のあゆみを理解する。 日本人のものの見方・考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、その考え方をまとめる。					学習活動 発問発表 ノート提出 定期考査 レポート

月	学習項目	学習のねらい	学習評価				評価方法
			関	思	技	知	
9	国際社会に生きる日本人の自覚 1 戦後思想の動向 2 国際社会での日本人 日本思想の中の人間の 尊厳について 研究問題	日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方や価値観がどうあるべきかについて考え、まとめたものを発表する。					レポート 学習活動 発問発表 ノート提出 定期考査 レポート
	第4章 現代を生きる人間の倫理 わたしたちの「現在」	高校生の意識調査結果などを活用して、自分たちを取り巻く現代社会の現状について理解する。					学習活動 発問発表 ノート提出
10	人間の尊厳 1 人間尊重へ向けて	人間の尊厳や自由にかかわる先人の思想に考えをめぐらし、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかについて考える。 ルネサンスの時代に生まれた新しい人間観や、カント・ヘーゲルらの思想について整理し、理解する。					学習活動 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	2 合理的精神の確立 3 社会契約説 4 人格の尊厳～カント～	ベーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し、科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。 経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのか、自分の課題とつなげて理解する。 近代ヨーロッパの社会契約論をとおして、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に理解する。 カントが人間の理性能力を吟味し、理性の限界を明らかにしようとしていたことを理解する。					
2 学期中間考査 ・ 授業評価							
11	民主社会への倫理 1 ヘーゲルの人倫の思想 2 功利主義 3 社会主義思想 プラグマティズム	ヘーゲルの弁証法的なものの方見方、及び弁証法に基づく「人倫」の捉え方について理解する。 ベンサムとミルの幸福に対する考え方の違いについて理解する。 社会主義の生まれた背景とその発展過程、現代の社会主義の実態について考える。 プラグマティズムでは、思想や知識の意味、価値を現実的な有用性においていたことを理解する。					学習活動 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	新たな人間像の模索 1 主体性の回復をもとめて 2 現代の実存哲学 3 フランクフルト学派 4 構造主義 分析哲学	キルケゴールの単独者やニーチェの超人の思想について理解し、主体的自己の確立とはどういうことかについて考える。 実存主義に関して、自由な内面的自己を確立する意義と、人類に責任を負う生き方について考える。 先人の思想を振り返りながら、私たちの社会はどうあるべきか。自己の生き方はどうすればよいのかについて考え、まとめる。					学習活動 発問発表 小テスト ノート提出 定期考査 レポート

月	学習項目	学習のねらい	学習評価				評価方法
			関	思	技	知	
12	自然や科学技術と人間のかかわり 1 近代的自然観 2 自然との調和	近代科学及び機械論的自然観の特徴を理解し、目的論や生態学による自然観について考える。生命軽視の傾向が強まる現代社会の現状を把握したうえで、生命への畏敬を説いた人々の思想を理解し、その意義について考える。					学習活動 発問発表 小テスト ノート提出 定期考査
	民主社会の成熟のために 1 差別と偏見のない社会 2 社会参加と奉仕 フェミニズム 正義の考え方 研究問題	自由と平等をどう両立させるかについて、現実の問題を例にあげながら考える。 ボランティア活動などをとおした社会的連帯の意義も踏まえて、自己実現や幸福とはどういうことかについて考える。 個人の自己実現や幸福も現代社会のシステムと関連していることを理解する。					学習活動 発問発表 小テスト ノート提出 定期考査 レポート
2 学期期末考査 ・ 授業評価							
1	第5章 現代の課題を考える 1 生命倫理 2 環境と環境倫理 3 変容する家族 4 情報社会の中の人間 5 グローバル化する社会の中の人間 6 豊かな社会とは何か 高知県に関する研究問題	生命科学や医療技術の発達により、生命の誕生から終わりまで人間の手が加えられるようになってきたことを理解し、人間はどこまで生命という自然法則に参与してよいのかなどについて、自分の考えをまとめる。(ディベート) 地球規模だけでなく、身近なところで起こっている環境問題について調べ、限りある資源を未来の世代にも残すためには何をすればよいのか。そして環境倫理とはどういうことかなどについて、自分の考えをまとめる。(ディベート) 少子高齢社会の問題点について、家族の形態や地域社会はどのように変化してきたか。それらに期待される役割とはどういったものかなどの視点から資料を収集し、自分の考えをまとめる。 高度情報化とはどのようなことであるのか。また、その進行に伴ってどのような課題が発生しているのかについて理解し、自分の意見をまとめる。さらに、高度情報社会を生きるための情報モラル・メディアリテラシーを身に付ける。 国際社会とはどのようなことをさしているのか。異文化理解のためには何に気をつけなければならないのかなどについて、考えをまとめる。 豊かさを追求してきた社会だが、様々な面で問題が生じてきていることを理解させ、本当の豊かさとは何か。人類にとっての福祉はどうあるべきかなどについて、自分の意見をまとめる。 中江兆民や幸徳秋水、佐竹音次郎や坂本直寛などの高知県出身の先人の生き方や思想について資料を収集し、まとめる。					学習活動 発問発表 ノート提出 定期考査 ディベート レポート
	3 学期期末考査 ・ 授業評価						

第5章については、1・2から1つ、3・4から1つ、5・6から1つ選択して



評価規準はどうなっていますか？

評価の規準だよ。
よく見ておいてね。

章	単元	評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
		先人の思想や生き方、自分自身がどうであるかについて関心を高め、自分らしい自分になるために行動する意欲を持つと共に、これらにかかわる諸課題について、自分や他者、社会との関わりから学び考える態度を身に付けている。	自分らしい自分になるための課題を明らかにし、他者との関わりの中での自分自身の立場や社会の一員としての立場がどうあるべきかについて正しく判断できている。	諸資料を様々なメディアをとおして収集し、必要な情報を選択、まとめることができている。また、発表の場面では、他者の意見も尊重しつつ、自分の言葉で発表できている。	先人の思想や現代社会の特質についての基礎・基本的な知識を理解し、自らの人生観・世界観を形づくるための知識として身に付けている。
第1章	青年期の課題と自己形成	青年期の意義と課題に対する関心を高め、それを意欲的に深く考え、他者と共に生きる自己の生き方について考え、行動する態度を身に付けている。	自らの体験や悩みを振り返ることから課題を見だし、それに基づいて青年期の意義と課題を様々な視点から考え、よりよい自分になるためにどうあるべきかを考えている。	青年期の意義と課題に関する諸学問の成果や統計、調査資料、文学作品などの諸資料を収集・活用して、テーマに即したレポートを作成し、様々な方法でわかりやすく表現している。	自分らしい自分になるためには、どう生きるのか。どのような価値観をもってよいのかについて、常に考えていくことが必要であることを理解している。
第2章	人間としての自覚	人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などに対する関心を高め、それらのもつ人間の存在や価値にかかわる課題を意欲的に探り、人としてどうあるべきかについて考える態度を身に付けている。	自己の生き方にかかわる課題と人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などから、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を見だし、そのことについて深く考えている。	中国思想の日本への影響、日本における仏教思想の現代的意義、心ひかれる芸術作品とその作者に関する資料を収集・活用して、テーマに即したレポートを作成し、様々な方法でわかりやすく表現している。	自己の生き方にかかわる課題が、多くの先人によって明らかにされた課題と共通していることに気づき、それが人間の存在や価値にかかわる基本的な課題であることを理解している。
第3章	国際社会に生きる日本人の自覚	日本の風土や伝統、外来思想の受け入れに対する関心を高め、日本人にみられる人間観や自然観、宗教観などの特徴について、自分の意識とのかかわりから捉え、意欲的に考える態度を身に付けている。	国際社会に生きる日本人としての生き方や世界観、価値観について、古来の日本人の考え方や先人の思想を手がかりにしてどうあるべきかを考えると、広い視野に立って自ら正しく判断できている。	日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識をもっていたのかについてレポートを作成し、様々な方法でわかりやすく表現している。	古事記や日本書紀、万葉集などにみられる日本の風土や伝統、仏教や儒教について、西洋の思想や文化などにみられるものの方・考え方と関連させて理解している。
第4章	現代を生きる人間の倫理	自分たちが直面する諸課題や社会の特質に対する関心を高め、そこにある倫理的課題を自分の課題とつなげ、様々な視点から意欲的に探り、他者と共にいかに生きるかという自分の生き方について考える態度を身に付けている。	現代にはどのような倫理的課題があるのかを明らかにし、今を生きる自分たちにとって何が重要な課題であり、他者と共に生きる自分の生き方にかかわるのかについて深く考え、正しい判断ができている。	先人の考えを引用して自然をどう捉えればよいのか。また、先人が人間の在り方についてどう考えたのかを比較・整理するための諸資料を収集、活用して、レポートを作成し、様々な方法でわかりやすく表現している。	現代に生きる自分たちが直面する諸課題や社会の特質について、倫理的視点から理解し、自分の生き方とつなげて、これらにかかわる知識として身に付けている。
第5章	現代の課題を考える	現代の倫理的課題への関心を高め、それを自分の課題とつなげて意欲的に探り、現代に生きる人間としての生き方や世界観、価値観について積極的に考える態度を身に付けている。	現代の倫理的課題について、自然と人間とのかかわり、社会生活と自分とのかかわり、国際社会と自分とのかかわりの3つの視点から深く考え、正しい判断ができている。	学習した3分野について自ら課題を設定し、その課題解決のための諸資料を収集、活用して、卒業論文を作成し、様々な方法でわかりやすく表現している。	現代に生きる人間としての生き方や世界観、価値観にかかわる諸課題を自分の課題とつなげて理解し、自分らしい自分になるための知識として身に付けている。

参考文献

- 『平成14年度教育課程研究指定校調査研究資料』(国立教育政策研究所教育課程研究センター)
- 『倫理』(東京書籍)
- 『新しい授業づくりのために - 評価基準、評価方法等の工夫改善事例集 - (高等学校)』(高知県教育センター)
- 『高等学校 倫理』シラバス案(第一学習社)
- 『倫理』年間指導計画案(実教出版)
- 『高等学校現代倫理』観点別評価(清水書院)